

編集後記

一般社団法人に移行して初めての会報をお届けします。

原子力発電事故が大きく影響し、今年も日本全国で電力不足が続くようです。“人”が生み出した偉大な文明である原子力発電が、残念ながら、東日本大震災をきっかけに多くの人の生活に大きなダメージを与えることとなりました。ISO14001として対応すべき緊急事態は、めったに起こらないけれど起こったら大変なこと、とされています。私たちも、今一度、足元の安全をしっかりと見直さねばなりません。

生活水準を上げてきた“人”が、さらにゆとりのある社会を築くために、文明の成果をさまざまに活用することは致し方ないことです。しかし、私たちが産業活動を進める上で重要なことは、“人”を頂点とする食物連鎖にできるだけダメージを与えないように、日々、しっかりと考え、行動することだと思います。

本年開かれたリオ+20での最大のテーマは、環境と経済の調和を意図した「グリーン経済への移行」でした。当協議会においても、約200社からなる大規模ネットワークを用いてコミュニケーションを図り、環境と経済の調和をグローバルな視点で上手にやっていければ、と思っています。

皆様からのご意見・ご感想などをお寄せいただければ幸甚です。

キッコーマン(株)
環境部 浅井祥二

会報 第 87 号

発行年月 平成24年8月

発行者 一般社団法人 千葉県環境保全協議会

会長 藤井 正太郎

千葉市中央区長洲1-15-7 森林会館内
電話 043(224)5827

印刷刷 株式会社 アイポップ

千葉県長生郡睦沢町上市場1831
電話 0475(40)3700

編集委員

キッコーマン(株)・アタカ大機(株)
大和千葉製罐(株)・(株)ヒダント
(株)ジャパンディスプレイイースト

表紙写真：
タイトル 里山の夏(D I C川村記念美術館)
D I C(株)千葉工場 O B
平 悟 氏 提供

事務局からのお知らせ

会報表紙写真の募集をします
(随時)

会報“kanhokyo”は、表紙写真を会員のみなさまから募集致します。

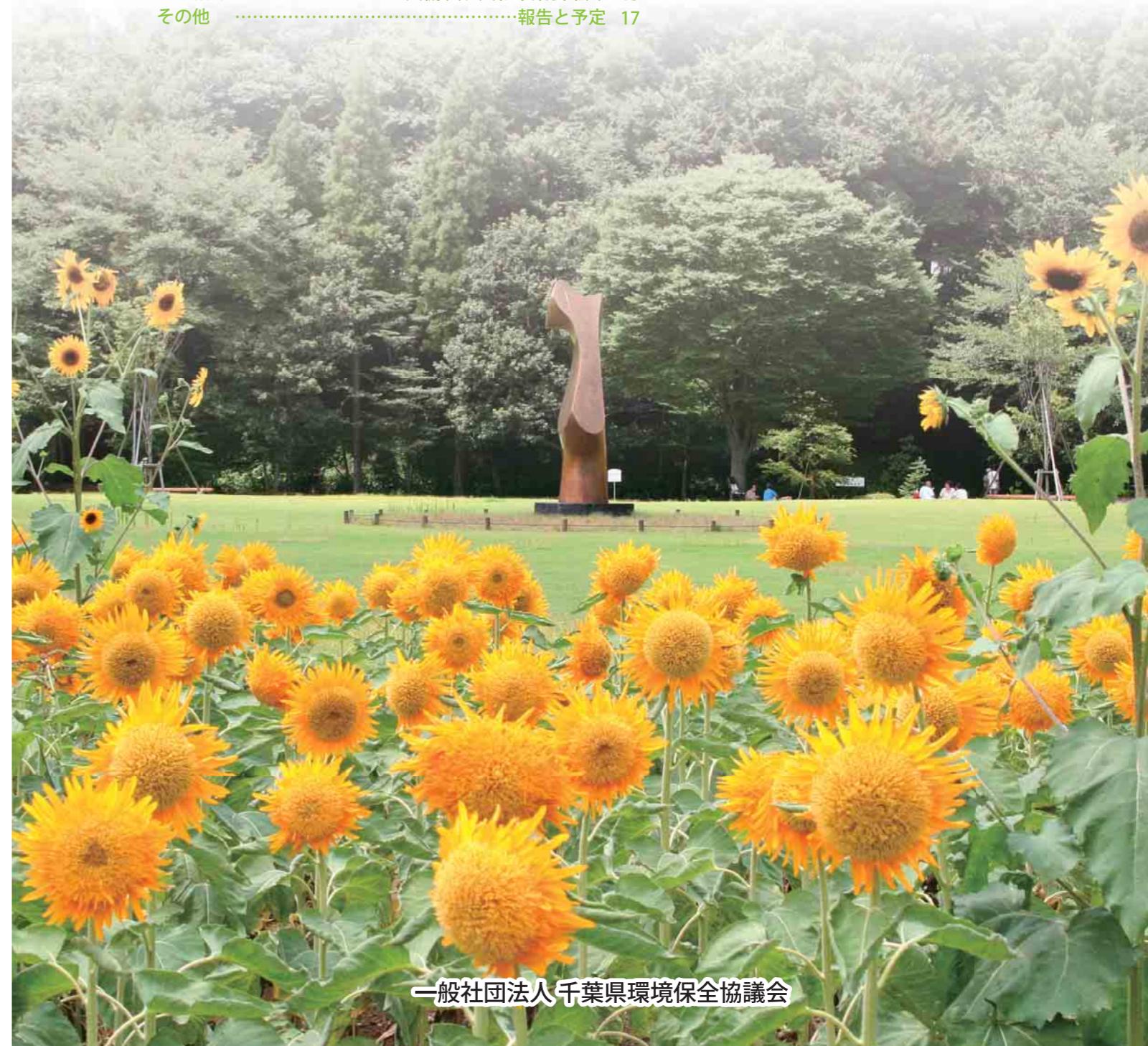
2回発行の夏号(8月)と新春号(1月)の表紙写真としてふさわしい作品を編集委員会にて選考させて頂きます。

掲載にあたっては、薄謝を贈呈致しますのでふるってのご応募をお待ちします。

KanHOKyo

CONTENTS

あいさつ	代表理事 和田福明	1
あいさつ	千葉県環境生活部長 戸谷久子	2
協議会活動	平成24年度通常総会、研修会 他	3
地域部会	千葉部会、印旛・香取部会 松戸部会、市川部会の活動	5
行政ニュース	印旛・手賀沼に係る湖沼 計画(第6期)について	6
	光化学スモッグの発令地域の拡大について	9
	東日本大震災を契機とした環境分野の取組	11
会員紹介	アタカ大機(株)、大和千葉製罐(株)	15
その他	報告と予定	17



一般社団法人千葉県環境保全協議会

代表理事就任あいさつ



代表理事 和田 福明
電気化学工業(株)千葉工場
環境保安・技術部長

本年4月から、「一般社団法人」千葉県環境保全協議会の初代代表理事を仰せつかる事になりました。関係当局からのご指導や会員皆様からのご協力を賜り、任務を遂行して参りたいと存じますので、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

始めに、昨年3月に発生しました「東日本大震災」の被災者の皆様並びに関係者の皆様には、衷心よりお見舞いを申し上げます。順調に復旧・復興が推進されますよう、お祈り致します。

当協議会は、1975年の発足以来、公害防止管理者等の教育・育成、会員相互の交流・啓発等を進めることで、工場や事業場などでの確実な公害防止の遂行促進と地域の環境保全の支援となるよう各事業を進めて参って来ました。千葉県及び関係6市(千葉市、木更津市、市原市、君津市、富津市、袖ヶ浦市)と企業とが締結する、「公害防止に関する協定」は、基本協定が平成22年度には35年ぶりに改訂され、地球環境保全などを取り入れた新たな協定枠組みである「環境の保全に関する協定」となりました。「地域住民の健康保護」と「生活環境の保全」は当然の実施されるべき事項となり、環境問題の視点は「地球環境の保全」へ移ったのであります。一方、「東日本大震災」の発生に伴い、「省エネルギー」や「温室効果ガス排出削減」等は、従来の計画通りに推進することが困難になりつつあると言えます。今後打ち出せるかもしれない環境諸政策や新しいエネルギー政策方針に関して、当協議会と致しましても適格に情報収集するとともに、適時情報発信して行かなくてはならない事と認識しています。

さて当協議会は、新法人制度への対応諸手続きを昨年度の大きな事業活動項目の一つとして挙げ推進し、本年4月に滞りなく完了する事が出来ました。会員企業の皆様方のご協力に対し、改めてお礼を申し上げます。総会でご承認頂きました新定款の制定をはじめ、必要な規定の見直し・制定等も実施して來たところであります。

新法人となり今後の当協議会の発展を考えますと、従前以上の協議会の存在意義・目的を意識した事業執行が必要と判断されます。関係皆様方のご指導、ご協力をお願い申し上げまして、簡単ではございますが、就任のご挨拶とさせて戴きます。

環境生活部長 あいさつ



千葉県環境生活部長 戸谷 久子

一般社団法人千葉県環境保全協議会の皆様におかれましては、日頃、環境保全に関する講習会や研修会の開催、環境保全技術に関する情報提供、指導、啓発及び普及など、幅広い活動により県内各企業の環境保全に関する知識のかん養に努力され、本県の環境行政の推進に関し、御支援と御協力をいただきておりますことに、厚くお礼申し上げます。

本年度は、本県の政策の基本的な方向をまとめた千葉県総合計画「輝け！ちば元気プラン」の総仕上げの年であります。

環境生活部といたしましても、「くらし満足度日本一」の実現に向け、積極的に事業を実施してまいります。

特に、環境分野では、「地球温暖化対策の推進」、「資源循環型社会の構築」、「豊かな自然環境と良好な大気・水環境の保全」を重点施策と位置付ける中、太陽光発電システム助成など再生可能エネルギーの導入促進、廃棄物の発生抑制や資源としての再使用・再利用の推進、良好な大気・水環境を保全するための継続した監視などの健全で恵み豊かな環境づくりのための取組を進めてまいります。

また、昨年3月に発生した東日本大震災は、環境分野においても大きな影響をもたらしており、県では、放射性物質対策として、モニタリングポストによる常時測定等とともに、放射性物質の河川や湖沼等への移動や土壤への浸透状況等の調査を実施しているところです。

環境保全は、地球規模で解決すべき課題であるとともに、県民の皆様が安全・安心に暮らしていくための重要なテーマでもあり、県といたしましては、本県の豊かな環境を次世代の子どもたちに引き継いでいくため、環境保全に関する施策を積極的に展開してまいります。

そのためには、行政はもとより、千葉県環境保全協議会並びに会員企業の皆様の知恵と技術がこれまで以上に必要となってまいりますので、更なる御支援と御協力をお願い申し上げます。

結びに、貴協議会並びに会員企業の皆様の益々の御発展を祈念いたしまして、あいさつとさせていただきます。

協議会活動

5月11日(金) 平成24年度通常総会・記念講演会を開催 一般社団法人移行 初回総会 於：ポートプラザちば ロイヤルの間

【記念講演会】

「災害に強い企業になるための防災・危機管理」
防災システム研究所長 山村 武彦 氏



山村武彦：学生時代に遭遇した新潟地震でのボランティア活動を契機に研究所設立。現場主義を掲げ、地震、津波、噴火、土砂災害、テロ、事故など150ヶ所以上の災害現場現地調査実施。実践的防災・危機管理対策の第一人者。

【通常総会】

平成24年度通常総会は5月11日、千葉市ポートプラザちば2階「ロイヤル」において、来賓に千葉県戸谷環境生活部長をはじめ、同権引環境政策課長、同工藤環境政策副課長、千葉市渡辺環境保全部長、同市篠崎環境保全部長、船橋市伊藤環境保全部長をお迎えして、会員96名の出席を得て開催されました。当協議会が一般社団法人へ移行した初回通常総会となりました。

会長の電気化学工業㈱千葉工場 上席執行役員工場長 藤井正太郎より、新法人移行後も関係各位のご支援をお願いする旨、挨拶がありました。



▲来賓代表として挨拶に立つ戸谷千葉県環境生活部長

要旨：東日本大震災で問われた5つのポイント（とらわれない、対策と行動の優先順位、役割と責任分担、自己に働く認知心理、対応力向上のための図上訓練）について、真実は現場にあり多くの経験を踏まえての講演。

そのためには、認知心理の有事のメカニズムを知ることが重要であること、地震・防災対策は経験から編み出された目からうろこの原則が良い。企業が、防災に強くなるためBCP(点・線)からCCP(面)への連携、相互防災協定や近隣の精神に基づく展開が決め手になる。CCP:コミュニティ継続計画



▲法人移行後の初回総会を迎えて挨拶を行う藤井会長

【総会議案】

総会議案審議された議案は、以下のとおりです。
第1号議案 平成23年度事業の承認について
第2号議案 平成23年度収支決算の承認について
第3号議案 平成24年度事業計画の決定について
第4号議案 平成24年度収支予算の決定について
第5号議案 役員の一部変更について
第6号議案 一般社団法人移行認可申請について
以上の議案は、満場一致で承認可決されました

一般社団法人移行認可の報告について

平成20年(2008)12月「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律及び公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律」が施行(施行日から5年間は移行期間)されました。このため、当協議会では移行申請に必要な手続き(定款の変更の案、公益目的支出計画等を基準に適合させる)を行い、3月に正式に許可を受けました。これを踏まえて、4月1日に一般社団法人設立と旧法人解散の登記申請を行い移行が完了致しました。

協議会活動

【統括者・主任者研修会】

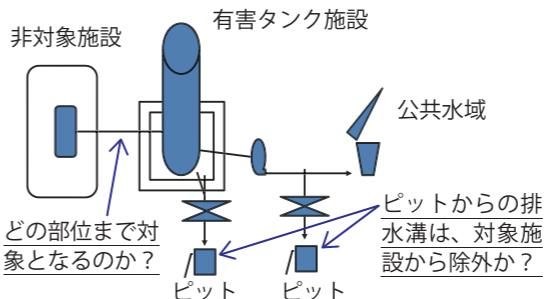
一 廃棄物関係・水質関係合同一 (3月21日(水) 於 千葉市文化センター)

23年度の統括者・主任者研修会は、施行され間もない「放射性廃棄物汚染対処措法」と本年6月より施行される「改正水質汚濁防止法」の同時開催となりました。

ともに、事業者への影響が大きな法改正であるため多くの受講者(120人)が参加されました。

研修会は、内容が広範囲に及んだことから効率的な進行を進めるため事前質問(16件)を受けつけて実施しました。

【事前質問の例】



【公害防止管理者受験者講習会】

会場：千葉県自治会館

公害防止管理者制度は、昭和46年に「特定工場の公害防止の整備に関する法律」が制定され、特定事業者に公害防止管理者の選任を義務づけています。

当協議会では、昭和50年より毎年度、受験のための準備講習会を開催しています。本年度のスケジュールは掲載の通りですが、10月7日の公害防止管理者等国家試験に向けて準備が始まりました。



▲講習会(第1回大気コース)の様子

【平成23年度 廃棄物関係管理者研修会】

1. 行政法令動向 <廃棄物関係>

「放射性廃棄物汚染対処措法」の施行について
千葉県環境生活部資源循環推進課資源循環企画室
主幹 石崎勝己氏
「特定産業廃棄物の処理」について
千葉県環境生活部廃棄物指導課指導企画室
主査 平野俊幸氏

2. 行政法令動向 <水質関係>

「改正水質汚濁防止法：H24.6施行」について
千葉県環境生活部水質保全課水質指導・規制班
班長 市原泰幸氏



▲事業者への影響が大きい内容に熱心に説明を受ける参加者

平成24年度受験者講習会のスケジュール

水質コース 3日間(定員：各80名)		
	1日目	2日目
第1回	7月18日(水)	7月19日(木)
第2回	8月8日(水)	8月9日(木)
科目	公害総論・水質が概論	汚水処理特論
時間	9：30～17：00	9：30～17：00
7月20日(金)		
8月10日(金)		
水質有害特論 大規模水質特論		
9：00～17：00		

大気コース 3日間(定員：各80名)		
	1日目	2日目
第1回	7月25日(水)	7月26日(木)
第2回	8月29日(水)	8月30日(木)
科目	公害総論・大気概論	大気特論
時間	9：30～17：00	9：00～17：00
7月27日(金)		
8月31日(金)		
大気有害特論・ばいじん 一般粉じん特論 大規模大気特論		
9：00～17：00		

騒音振動コース 2日間(定員：各30名)		
	1日目	2日目
第1回	8月30日(木)	8月31日(金)
科目	公害総論 騒音振動概論	騒音振動特論
時間	9：30～17：00	9：00～17：00

ダイオキシンコース 2日間(定員：各30名)		
	1日目	2日目
第1回	9月13日(木)	9月14日(金)
科目	ダイオキシン類概論 ダイオキシン類特論 (測定技術のみ)	ダイオキシン類特論 (測定技術を除く)
時間	9：30～17：00	9：00～17：00

地域部会活動

【千葉部会】

平成23年度第2回部会

- (3月12日(月) : 施設見学)
 千葉県環境研究センター研究者による講演
 環境研究センターの役割と取組について
 講師: 高橋センター次長
 環境研究センターの施設見学
 大気汚染測定室、環境放射能測定棟、
 残響・無音室

平成24年度第1回部会

- (7月20日(金) : 施設見学)
 千葉市環境保全課による講演
 1) 水質保全行政の現状と課題
 2) 地球温暖化対策について
 南部浄化センターの施設見学



情報を元に行政
を受ける
(講演より)

【市川部会】

平成23年度第1回部会

- (9月30日(金) : 施設見学)
 協議会理事会報告
 講演(生物多様性の取組について)
 工場見学
 (北越紀州製紙株)
 情報交換



報告、講演、工場見学、情報
交換と交流を深めました

平成23年の理事会報告、協議会が進めている一般社団法人に関する申請状況と今後の予定について報告されました。

続いて、工場見学が実施され製紙製造ライン並びに環境保全施設の見学を実施させて頂きました。操業の状況に対応した環境保全施設の管理について、大変参考になりました。

平成23年度第2回部会

- (3月26日(月) : 施設見学)
 協議会理事会報告
 市川環境保全課伝達事項
 (改正水質汚濁防止法)
 情報交換
 改正水質汚濁防止法への対応、放射性物質に関する状況について会員相互の意見交換。

【印旛・香取部会】

平成23年度第1回部会

(2月29日(水) : 施設見学)

内容

- 協議会理事会報告
- 講演
- 情報交換

県より、印旛・香取地区の一般大気環境は昭和50年当時と比較して大幅に改善が進んでいる。

県下の放射能測定箇所は2ヶ所であるが、国からの予算がおりて更に6ヶ所増やす準備を進めているとの説明がありました。

会員より、「当該地区は湖沼特別措置法の該当地区であり、厳しい排出基準がある。立ち入りも、大気、水質とバラバラだけれどまとめてできないのか」など要望もありました。



講演内容について
情報交換も多かった

講演内容について
情報交換も多かった

【松戸部会】

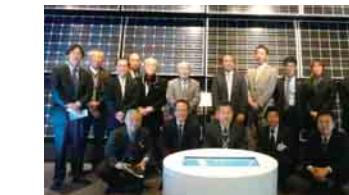
平成23年度第5回部会

(2月7日(火) : 観察研修)

松戸商工会議所工業部会環境対策委員会との合同観察研修会として実施しました。
 見学先①
 かわさきエコ暮らし未来館・東京電力浮島太陽光発電所

地球温暖化、再生可能エネルギー、資源循環をテーマにした施設であるかわさきエコ暮らし未来館及び、最大出力7000kW、年間発電量約740万kWhの能力を持つ東京電力浮島太陽光発電所を見学しました。
 見学先②

N E C 玉川ルネッサンスシティエコロジービルであり最先端のインテリジェントビルでもあるN E C 玉川ルネッサンスシティを観察しました。



かわさきエコ暮らし未来館

行政ニュース(1)

印旛沼・手賀沼に係る湖沼計画(第6期)について

千葉県環境生活部水質保全課

本県の北部・北西部に位置する印旛沼・手賀沼は、昭和30年代以降の都市化の影響により水質が悪化し、現在は全国ワーストの上位を占める水質となっています。

国は、全国にある湖沼の水質保全等を図るために、昭和59年に湖沼水質保全特別措置法(湖沼法)を制定し、昭和60年12月、印旛沼及び手賀沼は指定湖沼に指定されました。

県では指定を受けた両湖沼について、昭和61年以来、5期にわたり湖沼法に基づき湖沼水質保全計画を策定し、水質保全対策を実施してきましたが、未だ環境基準の達成等には至っておりません。

そこで、平成23年度に新たに第6期湖沼水質保全計画を策定し、引き続き水質保全対策に努めてまいります。

1. 第6期計画の方針

- 長期ビジョンを設定し、その達成に向けて、5カ年(平成23年度～平成27年度)における水質等の目標値を設定し、計画的に排出汚濁負荷量を削減する。
- 生活雑排水の未処理放流を改善するため、生活排水対策等を重点的に推進する。
- 湖内の窒素・りんが横ばい傾向であることから、窒素・りんの削減を推進する。
- 面源系の負荷の比率が高いことから、面源対策をさらに推進していく。

2. 長期ビジョンの設定

・印旛沼

印旛沼流域水循環健全化計画*で設定した基本理念「恵みの沼をふたたび」及び「良質な飲み水の源印旛沼とその流域」など5つの再生目標との整合を図り、平成42年までにそれらの達成を目指す。

・手賀沼

「水質改善が生物の生息・生育環境を改善し、その生物が水質改善に寄与するという、循環型で持続可能な環境を保全すること」を目標とし、平成42年までに環境基準達成を目指す。



印旛沼



手賀沼

3. 湖沼の水質の保全に関する方針

計画期間内に達成すべき目標(単位:mg/L)

	印旛沼		手賀沼	
	現況 (H22年度)	目標 (H27年度)	現況 (H22年度)	目標 (H27年度)
化学的酸素要求量 COD(75%値)	10	9.7	9.6	8.8
COD(平均値)(参考値)	8.9	8.5	8.9	8.2
全窒素(T-N)(平均値)	2.9	2.7	2.5	2.4
全りん(T-P)(平均値)	0.14	0.13	0.16	0.14

4. 湖沼の水質の保全に資する事業(主なもの)

- 下水道、合併処理浄化槽、農村集落排水施設、家畜排せつ物処理施設などの整備
- 流入河川等の浄化対策(河川浄化施設等、多自然川づくり、河川清掃等)
- 湖沼の浄化対策(沼からの負荷削減、水生植物による水質浄化、沼清掃等)

印旛沼		現状(H22年度)	目標(H27年度)
下水道の整備	処理人口普及率	612千人 79.9%	644千人 81.4%
高度処理型合併処理浄化槽の整備	設置基数使用人口	1,958基 9.0千人	3,757基 18.0千人
農村集落排水施設の整備	使用人口利用率	4.7千人 81.0%	5.0千人 85.8%

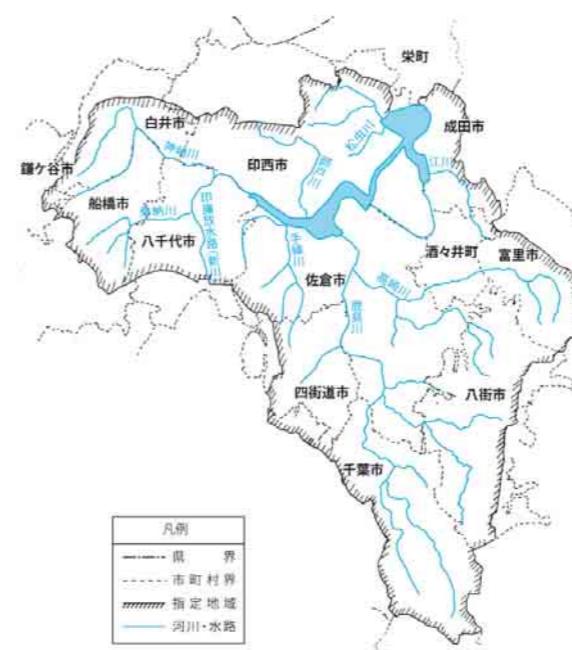
手賀沼		現状(H22年度)	目標(H27年度)
下水道の整備	処理人口普及率	446千人 88.4%	480千人 91.8%
高度処理型合併処理浄化槽の整備	設置基数使用人口	560基 2.6千人	1,138基 5.2千人

5. 湖沼の水質保全のための規制その他の措置(主なもの)

- 工場・事業場排水対策(排水規制、汚濁負荷量規制、小規模事業場に対する指導等)
- 生活排水対策(水質汚濁防止法に基づく生活排水対策の促進、下水道等への接続の促進、浄化槽の適正な設置・管理の確保、各家庭における生活雑排水対策の推進)
- 畜産業に係る汚濁負荷対策
- 漁業に係る汚濁負荷対策
- 流出水対策(雨水浸透施設の設置、道路・事業所等透水性舗装の整備、路面清掃など市街地対策、農地対策、流出水対策地区(鹿島川流域、大津川流域)における重点的対策の実施)
- 緑地の保全その他湖辺の自然環境の保護(里山の保全、湧水の保全と活用など)
- 地下水利用の適正化、土砂等の埋立等の規制(残土条例)

6. その他(主なもの)

公共用水域の水質の監視、調査研究の推進、地域住民等の協力、環境学習の推進等、計画の進捗管理、放射性物質について、印旛沼流域水循環健全化会議における水環境等に係る施策の推進(印旛沼)等



行政ニュース(2)

光化学スモッグの発令地域の拡大について

千葉県環境生活部大気保全課

1. 経緯

県では、大気汚染防止法第23条の規定により、光化学スモッグの発生及びそれに伴う健康被害等を防止するため、昭和46年度から「千葉県大気汚染緊急時対策実施要綱」を定め、関係機関、関係市町村及び緊急時協力工場の協力を得ながら、緊急時対策を実施しています。

近年、全国的に光化学スモッグの広域化が問題となっており、千葉県でも外房、南房総地域でオキシダント濃度が注意報発令基準以上となっている事例も見受けられるため、平成24年4月1日から発令地域を県全域としました。

2 改正概要

「千葉県大気汚染緊急時対策実施要綱(オキシダントの部)」第4条(発令地域)を改正し、発令地域を25市5町(平成23年度)から、県内全市町村としました。(36市17町1村)

また、「東葛地域」については、野田市ののみが光化学スモッグ注意報の発令基準を超える事例が見られることから実態に合わせ、発令地域を分割しました。

(1)発令地域の拡大

「九十九里地域」、「長生・夷隅地域」、「南房総地域」の3地域を新たに設定する。

(2)既存地域区分の分割

「東葛地域」を分割して、「野田地域」と「東葛地域」の2地域とする。

3 発令期間

毎年、4月1日から10月31日まで

4 発令基準

区分	オキシダント濃度による発令基準
予報	0.12 ppm以上になるおそれがあると判断されるとき
注意報	0.12 ppm以上である状態が継続すると判断されるとき
警報	0.24 ppm以上である状態が継続すると判断されるとき
重大緊急報	0.40 ppm以上である状態が継続すると判断されるとき

5 県民への周知

市町村及び報道機関等の協力を得て発令時には速やかに県民へ広報するとともに、県ホームページでも発令状況等の情報提供を行っています。

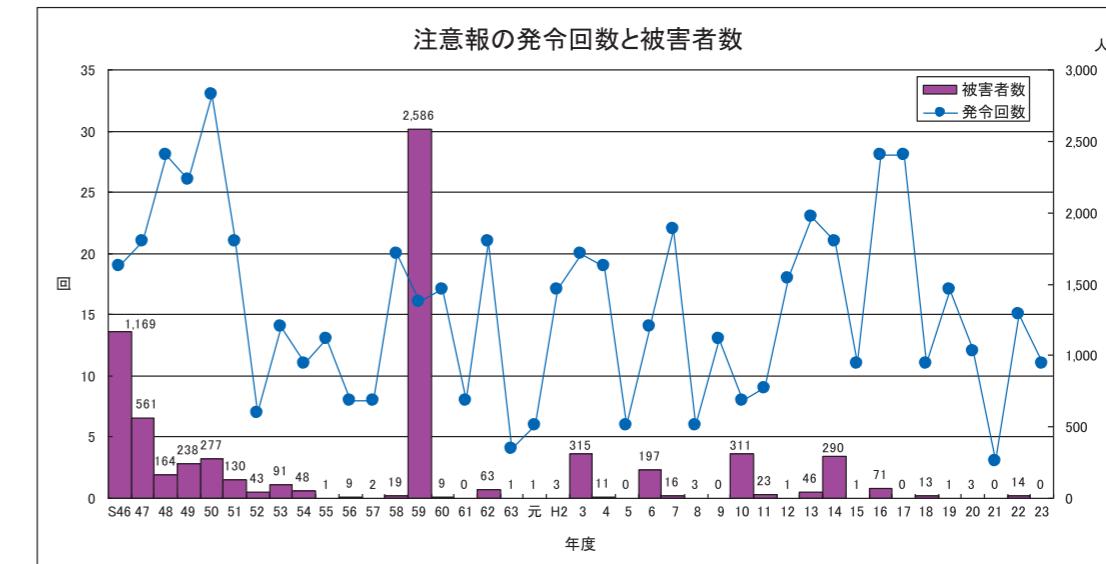
千葉県ホームページ <http://www.taiki.pref.chiba.lg.jp/smog.html>

6 工場等の協力

光化学スモッグ注意報等の発令時には、光化学スモッグの原因物質である、ばい煙や揮発性有機化合物を多く排出している工場の協力を得て、工場からの排出量を削減しています。

現在、230工場の協力を得ています。

区分	削減内容
予報	燃料使用量等の通常値の20%削減
注意報	燃料使用量等の通常値の40%削減
警報	
重大緊急報	



光化学スモッグ注意報等の発令地域

行政ニュース(3)

東日本大震災を契機とした環境分野の取組

千葉県環境生活部

未曾有の被害が発生した東日本大震災から約一年半が経過しました。本県においても、津波、液状化、地震動などにより、多くの人的・物的被害がもたらされました。

また、東京電力福島第一原子力発電所事故による放射能汚染の問題は、今なお、本県にも深刻な影響をもたらしています。

ここでは、東日本大震災を契機とした環境分野の取組について紹介します。

1. 環境中の放射能モニタリングの実施

1) 大気中の放射線量等の監視体制について

大震災発生以前から、市原市にある県環境研究センターに設置されていたモニタリングポストでの常時監視に加え、新たにモニタリングポストを増設し、県内全域での常時監視体制を整備するとともに、県ホームページ上で、測定結果を即座に確認できるシステムを導入し、公開しています。

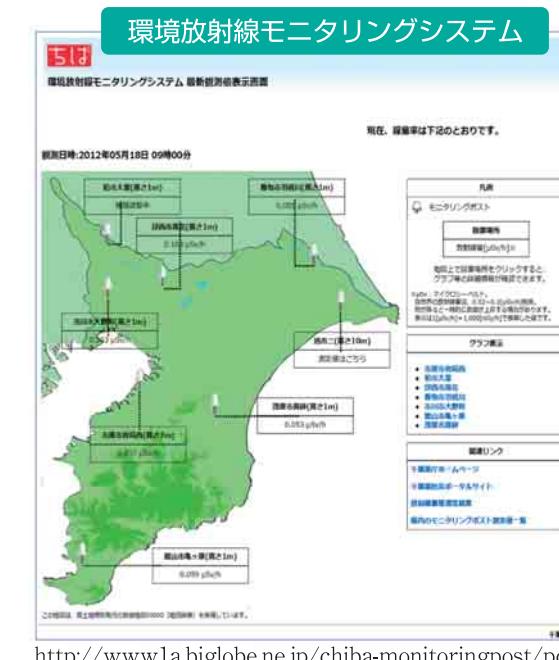
また、サーベイメータを新たに35台整備し、市町村へ貸与しています。

《県による監視体制》

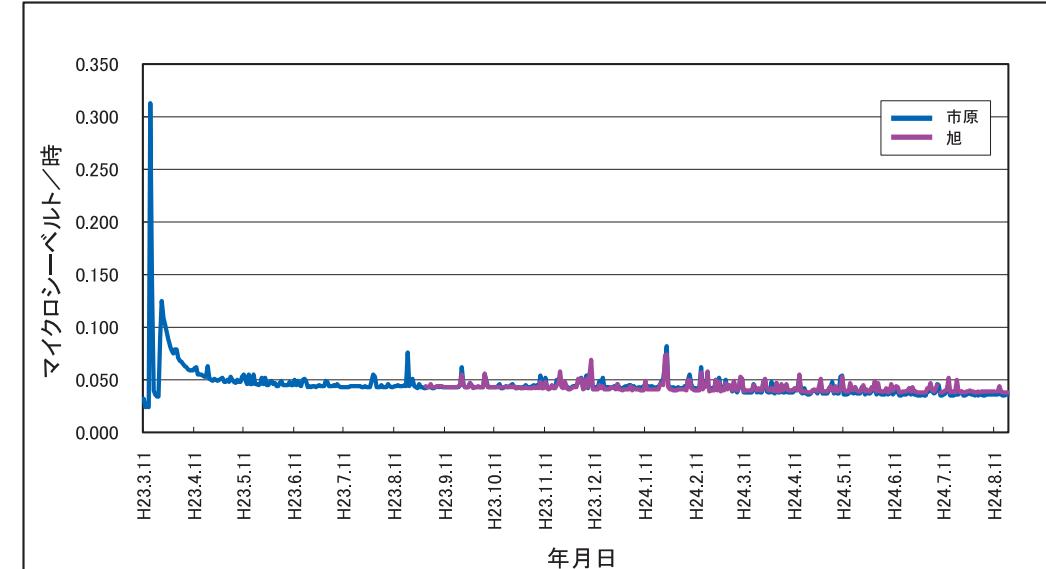
- モニタリングポストによる測定(県内8カ所に設置): 1時間ごとに測定・公表
- サーベイメータによる定点測定:環境研究センター及び地域振興事務所(10カ所)において、地上1m及び0.5mで測定し、当日に公表(週1回)
- 上水の核種分析:環境研究センターにおいて、3か月間採取し、分析精度を高めて(0.001 Bq/kg)分析し、公表
- 定期降下物の核種分析:環境研究センターにおいて、1か月間採取し、分析精度を高めて(0.1 Bq/m²)分析し、公表



旭市に設置したモニタリングポスト



空間放射線量の推移(日最大値)



(2) 公用用水域における監視体制について

国では、総合モニタリング計画を策定し、環境中の放射性物質の拡散、沈着、移動・移行の状況把握の調査を実施しています。県では、国の調査への協力に加え、県独自に、東京湾や印旛沼・手賀沼及びその流入河川で放射性セシウム等の環境モニタリングを実施しています。

《調査内容》

- 県による公用用水域の調査地点
 - 海域: 東京湾 10 地点(水質)、内房海域等 8 地点(水質・底質)
 - 河川及び湖沼: 手賀沼及び流入河川 19 地点(水質・底質)
 - 印旛沼及び流入河川 23 地点(水質・底質)
- 海水浴場や潮干狩場における海水の測定
 - 海水浴場: 69 地点(開設前及び開設中)
 - 潮干狩場: 7 地点

2. 県内で発生した災害廃棄物の処理

東日本大震災では、本県においても大量の災害廃棄物が発生し、その量は約13万トンに達し、被害の最も大きかった旭市では、約8万トンで、市の一般廃棄物排出量の約3年分に相当する量が発生しました。(平成24年5月末現在)

災害廃棄物は、一般廃棄物として扱われ、原則として、市町村の責任で処理が行われることになりますが、旭市では、市単独で処理する余力がないことから、災害時のごみ処理事業に関する市町村間の相互応援協定と(社)千葉県産業廃棄物協会との災害廃棄物処理の協定が活用され、同協会では、延べ80社、市町村では、千葉市、市川市、市原市の3市の協力が得られ、県内での広域処理体制が構築され迅速な処理が行われたところです。

これにより、平成24年5月現在で、旭市では約94%、県全体で約93%の処理が完了しています。

また、災害廃棄物には、コンクリートがらや木材など、通常、市町村では処理ができない物が多く含まれていることから、これらが、産業廃棄物処理業者の再資源化施設で処理されたことにより、資源の有効利用が図られるとともに、適正な処理が行われたところです。

旭市の津波被害の状況（旭市 HP より）



仮置場の状況（旭市旧海上中学校跡地）

①平成 23 年 4 月撮影



②平成 24 年 2 月撮影



3. 再生可能エネルギーの導入促進

東日本大震災に伴う深刻な電力供給不足や原子力発電所の事故を契機に、太陽光や太陽熱、風力、水力、バイオマス、地熱などを利用した新エネルギーへの期待が高まっています。省エネエネルギーと再生可能エネルギーの強化が今後のエネルギー政策の大きな柱と考えられています。

23年8月に成立した「電気事業者による再生可能エネルギー電気の調達に関する特別措置法」により、本年7月に固定価格買取制度がスタートし、太陽光発電では、1キロワット当たり42円になるなど、事業の採算性の面からも、新規事業者の参入が大いに期待されているところです。一方で、この制度は、賦課金という形でコストを電力消費者全体で負担する制度であることから、コスト負担とのバランスが長期的に保てるかが課題となっています。

本県は、東京湾沿いに大規模な火力発電所を抱え、発電量と消費電力の関係からみると、電力の輸出県となっていますが、環境負荷の低減や電源の分散化を図る上で、再生可能エネルギーの導入は重要であると考えています。

県では、新エネルギーの活用促進により、エネルギーの分散確保、環境負荷の低減及び地域経済の活性化を図るため、県庁内に「新エネルギー活用推進プロジェクトチーム」を設置して、再生可能エネルギーの導入促進に向けた取組を進めており、3月29日に「新エネルギーの導入・既存エネルギーの高度利用に係る当面の推進方策」を策定したところです。今後は、この方策に基づき、県庁内の横断的な体制により、民間事業者や市町村によるプロジェクト展開や、県民による省エネルギー導入の取組を促進するとともに、県としても県有施設の活用等に率先して取り組んでいくこととしています。また、プロジェクトチームに提案された中から、先導性の高い5件のプロジェクトを重点支援プロジェクトに選定し、円滑な事業化を府内横断的に支援しているところです。今後、事業用地の確保などの調整が必要ですが、相当程度のポテンシャルがある未利用地の公有地や二次利用可能な民有地を活用した事業についても、関係市町村等と連携しつつ、その促進方法の検討を深めていきたいと考えています。これらの支援を通じて、今後、県内で、約10メガワットの新たな事業展開が見込まれ、将来的には合計100メガワット規模へと拡大することが期待されているところです。

一方、家庭における新エネルギーの普及促進も重要であることから、県では、市町村と連携し、住宅用太陽光発電設備の設置費用の助成を平成23年度から開始したところですが、本年度は予算額を大幅に増額して、県民による取組を支援しています。

昨年夏の電力不足による節電対策では、県の掲げた目標値である15%を超える、県全体で16%の節電が実現でき、全県を挙げての取組の結果、省エネや新エネルギーに関する県民意識は確実に高まったと感じています。今後も、エネルギーに関する県民意識の啓発に努めとともに、県自らも県有施設等における省エネルギー対策の推進や新エネルギー導入促進に取り組んでいきたいと考えています。

会員紹介

【 アタカ大機株式会社 柏事業所】

アタカ大機株式会社は、昭和42年に水処理等環境保全機器の総合プラントエンジニアリング会社として設立した「アタカ工業株式会社」と、昭和24年設立で洗煙・排ガス処理設備などの環境保全装置、電解装置、ろ過・脱水機などの産業機器を取り扱う「大機エンジニアリング株式会社」が平成18年10月に合併して誕生しました。

社員数は全社で603名、うち柏事業所は107人(ただし、子会社等を含めると柏事業所全体では185人になります。)

当柏事業所は、前述の大機エンジニアリングの東京工場として昭和47年に東京都墨田区から移転してきました。柏市の新十余二(しんじよふた)工業団地内、常磐高速柏インターのすぐそばに立地しています。



柏事業所の全景

移転当時の主力製品はゴムライニングであり、主に化学工業向けの重防食製品でした。柏事業所ができるから40年、現在ではアタカ大機のものづくりの中核として、伝統製品であるゴムライニングのほか、電解技術や分離ろ過・脱水技術、ガス処理技術をベースにした様々な製品の設計・製作、汚泥処理・し尿処理プラントにおける各種プロセス機器の製造も行っています。

また、開発の中心拠点として10mの深層型試験水槽を用いた汚水処理用曝気・攪拌装置の開発・検証や、電解技術の応用による水素やメタンなどのクリーンエネルギー技術の開発を行っております。



ゴムライニング工場



海水電解装置(単極式)



人々の生活や地球の未来に貢献する縁の下の力持ち的存在と自負しています。

昨年度は、東北電力と東京電力管内の大口契約者に対して「電力使用制限令」が発動されました。当柏事業所も例外ではなく、場内生産設備の時差立上げや平日から土曜への操業シフト調整、事務所室温調整などを行って何とか乗り切りました。

東日本大震災以降、原発の再稼働を含めた電力需給の問題がクローズアップされていますが、地球温暖化防止のためのCO₂排出削減への取り組みも待ったなしの状況です。

当社は環境保全に取り組む企業として、今後とも省エネ・CO₂排出削減に向けて、設備の更新・システムの見直し・運用面の工夫などを行い、改善を継続していく所存です。

会員紹介

【 大和千葉製罐株式会社】

当社は昭和44年に川崎製鉄株式会社の関連会社として設立された、千葉製缶株式会社を前身とする会社です。

その後、総合容器メーカーの大和製罐株式会社との資本提携により昭和57年12月に大和千葉製罐株式会社となりました。

大和千葉製罐株式会社はJFEスチール(株)東日本製鉄所千葉地区内にあり、敷地面積は約48,000m²で、従業員数については協力会社を含め230名です。

当社は魚肉・蔬菜・果実・ペットフード・コーヒー飲料に利用いただいている空缶を製造する製缶メーカーです。

缶胴は素材別にスチール缶とアルミ缶、成型別に3ピース溶接缶と2ピースDR缶で構成されており、蓋は主にアルミ製の天蓋とスチール製の底蓋になります。アルミの蓋は、中身の取り出し易いフルオープンになっており、一部は手の切りにくいでダブルセーフティ蓋で安全な構造になっています。

環境への取り組みとしては、塗装印刷工程で排出される有機溶剤を除去するエコインシネ設備があります。

揮発溶剤を大量に含んだオーブンからの排気ガスはエコインシネレーターに送られ燃焼・脱臭されます。この排ガスは熱交換器を通り熱源として再利用されます。また、材料に塗装印刷が必要のないラミネート材の利用も最近増加しています。

製缶の全工程で工業用水は使用せず、工業排水はありません。電力についても省エネルギー活動が盛んで、空調設備・コンプレッサー・照明をはじめ電力の見え



JFEスチール(株)東日本製鉄所千葉地区内にある大和千葉製罐株式会社 工場全景

る化を実施し、電力使用予想を立て、全従業員に周知し意識向上を図っています。

廃棄物についても、揮発性廃油は廃棄物業者を介して燃料として再利用されています。

当社の最終製品である缶詰について環境面からみてみると、多くのエコ特性があります。

まず、調理時間の短縮です。

食用缶詰は家庭内調理と比較すると高い熱効率が期待できます。ある程度の段階まで調理が終了している食用缶詰は、下ごしらえ時に電気ガス水道の節約となり、調理時間の短縮にも繋がります。

可食部分の多さも特徴の一つです。特に水産缶詰の鮭缶では、骨まで消費することが可能であるほか、多くの調理缶詰で素材を無駄なく使用しています。

賞味期限の長さから廃棄される可能性も他の食品と比較してかなり低く、食資源の有効活用の面でも大きな効果が得られます。同等の保存性を持つ食品分野と比べると、常温で流通・管理が出来る点から製造・流通・陳列・家庭内保存の全段階でエコ効果を発揮しており、容器の形状上、陳列・収納性の面で省スペース化を促進出来ます。

ごみ問題においてリサイクルは重要です。缶容器のスチール缶は89.4%、アルミ缶は92.6%と高いリサイクル率となっています。インドア消費の多い食用缶詰はさらに高いリサイクル率が期待されます。

このような缶詰製品を通して、私たちはこれからも社会に貢献していきたいと思います。



さまざまな用途に供される缶製品

その他

【第11回千葉県産業廃棄物適正処理推進大会】の報告 2月8日(水) 於：青葉の森芸術文化ホール

当協議会も主催者団体

この大会は、資源循環型社会の構築に向けて、県民・事業者をはじめ関係者が一堂に会し、産業廃棄物に対する認識を深めることを目的に例年開催されています。

産業廃棄物の排出事業者の部では、多年にわたり従事し、適正処理に大きな功績があったものにおくられる感謝状を、当協議会から3名が表彰を受けました。



主催者あいさつ

会員企業も単独出展予定
【第17回 エコメッセ2012inちば】
期 日 2012年9月17日(月)
会 場 幕張メッセ国際会議場

今年も参加(出展)します



環境イベント“エコメッセ2011 in ちば”的様子

“エコメッセ”は、持続可能な社会の実現をめざして、市民・企業・行政のみんなが良好なパートナーシップのもと協働し開催する環境活動見本市・協働創造市として開催されます。



受賞者のみなさん

▼受賞者(写真右より)
【排出事業者知事感謝状】
神村 哲夫 氏
茂原アテックス(株)
【排出事業者部長感謝状】
柳堀 忠 氏
ヤマサ醤油(株)
内山 芳浩 氏
(株)日立ディスプレイズ

kikkoman
おいしい記憶をつくりたい。

地球村のブランド

All Purpose Seasoning—キッコーマンしょうゆ



世界の西で東で、しょうゆの風味を活かした
新しい家庭料理が、どんどん生まれています。

おいしさを世界中へ——キッコーマン

お問い合わせ：キッコーマンお客様相談センター ☎0120-120358 <http://www.kikkoman.co.jp/>



未来を担う子どもたちのために。



「地球の平和」アリスタ スサント 8歳 インドネシア © 子供地球基金2011

住友化学は、未来を担う世界中の子どもたちが
笑顔で暮らせる社会や地球環境を実現するために、
化学の持つ無限の可能性にチャレンジしつづけます。

豊かな明日を支える創造的ハイブリッド・ケミストリー
住友化学

◆ 住友化学株式会社 本社(東京)〒104-8260 東京都中央区新川2-27-1 ☎(03)5543-5500 本社(大阪)〒541-8550 大阪市中央区北浜4-5-33 ☎(06)6220-3211 URL <http://www.sumitomo-chem.co.jp>

地 | 球 | 派 | 宣 | 言

アタカ大機は地球規模で自然と人間の調和を目指すエンジニアリングメーカーです。



アタカ大機株式会社

大阪本社 〒554-0012 大阪市此花区西九条5丁目3番28号(ナインティビル) TEL.06-6468-9652 / FAX.06-6462-1483
東京本社 〒111-0041 東京都台東区元浅草2丁目6番6号(東京日産台東ビル) TEL.03-3845-8623 / FAX.03-3845-8648
柏事業所 〒277-8515 千葉県柏市新十余二 11番地 TEL.04-7131-2271 / FAX.04-7132-7168
URL <http://www.atk-dk.co.jp>